

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

四天王の展開に関する研究

The Development of the Four Guardian Kings

2. 研究代表者氏名

高橋早紀子

Takahashi, Sakiko

3. 研究期間

2019年04月 - 2020年03月 (1年度目)

4. 研究目的

仏法を守護する護法神としてインドで誕生した四天王は、仏教の伝播とともにガンダーラや西域、中国、日本へと伝わり、各地で造像が行われた。その姿態や服制、持物などは多様で、こうした図像の多様性には各時代や地域における思想や信仰の反映が考えられる。しかし、これらの多様な図像の典拠や意味に関する検討が十分に行われているとは言い難く、四天王の展開についてはなお考察すべき問題が多く残されている。そこで本研究の目的は、様々な時代や地域における四天王の図像上の特色や宗教的機能について検討し、アジア的視野から四天王の展開に関する考察を深めることにある。具体的には、日本・中国・西域を中心とした四天王に関する研究発表に基づき、各専門分野の研究者とともに図像の変遷や宗教的機能の変容についての議論を深めることを目指す。日本・中国・西域・ガンダーラの美術史学や考古学を専門とする班員を中心に、広い視野から四天王の展開を考究する本研究には、分野横断的学際研究としての意義がある。

The idea of the four guardian kings who protect Buddhism was first developed in India and a lot of the associated imagery was created in Asian regions such as Gandhara, the Western Regions, China, and Japan during its eastward spread. Various iconographic features of the four guardian kings reflect specific thoughts and cults that are characteristic of each period and region. However, the transformation of this iconography and its religious functions have not yet been fully examined. Therefore, this research team seeks to investigate how the idea of the four guardian kings evolved throughout various periods and regions in Asia by examining its iconographic features and religious functions. For instance, we will hold two

workshops and discuss the transformation of these iconographic and religious functions in detail, based on the differing representations and imagery of the four guardian kings in the Western Regions, China, and Japan. This research team, including art historians and archaeologists who specialize in Gandhara, the Western Regions, China, and Japan, will advance interdisciplinary studies.

5. 研究成果の概要

年度内に二回企画した研究会のうち第一回は発表者の一名が病休、第二回は研究会自体が中止となったため、地理的にも時代的にも広範囲に及ぶ四天王にまつわる問題点を、総合的に検証する、という当初の目論見は、十分に達成することができなかった。しかしながら第一回において班長が行った、平安時代前期における四天王像の宗教的機能に関する考察については、20 余名の参加者によって実りある討論を行うことができた。その成果を取り込んで論考を執筆し、年度末に『仏教芸術』誌に投稿した。

6. 共同研究に関連した公表実績

なし

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

なし